

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(19)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(19)—

1. 始めに

前報(18)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

LONDON K15C 7064

モーツアルト 音楽の冗談

アイネ・クライネ・ナハトムジーク

4つのドイツ舞曲「ハーディ・ガーディ」

ウイリー・ボスコフスキー指揮ウイーンモーツアルト合奏団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

LONDON 盤ということで、DECCA、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

音楽の冗談は、ウイットに富んだ表情が次々と入れ替わって現れますし、アイネ・クライネ・ナハトムジークはお馴染みの曲、4つのドイツ舞曲「ハーディ・ガーディ」は、いかにも舞曲らしい躍動的な曲で、「ハーディ・ガーディ」という聴く機会の少ない楽器の演奏が挿入されます。

LINN LP-12 による再生では、前報(12)から前報(15)と同様、ボスコフスキー指揮ウイーンモーツアルト合奏団の演奏で、上記3曲とも、前報(12)から前報(15)と同様の演奏スタイルですが、曲による描き方を変えています。

ThorensTD124 による再生では、上記3曲とも、前報(12)から前報(15)と同様の再生ぶりですが、LINN LP-12 による再生より、もう少し積極的に前にでる印象です。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorenTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、前報(12)から前報(15)と同様、ボスコフスキー指揮ウィーンモーツァルト合奏団の演奏らしさが出ていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 の表情に違いがあることが聴き取れます。

以上